



秋が去って冬がくる。寒くなってきましたが、今年の冬が「暖冬」なのか、「厳冬」なのかはまだこれからですね。皆さんは「暖冬」になってほしいと思いますか？でも雪に覆られた白の世界にはあこがれていませんか。



国際二題



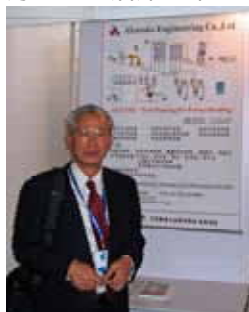
第39回技能五輪国際大会

39th World Skills Competition



二度と沼津市では開催されないであろう「技能五輪国際大会」が11月15日(木)～18日(日)の4日間、門池地区などで開催されます。第39回を迎えるこの大会は、世界43ヶ国から

22歳までの若者が機械設計CAD、溶接、電工、美容、洋菓子製造等々47の職種で技を競い合うとのこと。私は、懸命に競技する若者たちを是非見ておきたいと思っています。静岡県内からは4人出場することですのでこちらも楽しみです。喜ばしいことに、沼津市の小中学校が学校ごとに、参加国の応援を担当することになっているようです。子どもたちが外国人と触れ合うことができるし、ものづくり日本の将来を担う子どもたちが、自分達より少し年上の若い、しかもさまざまな国の人たちの、「技能」に興味を持ってくれるといいなと思います。また、外国の方々も心強い応援に感動することでしょう。競技者だけでなく関係者の方々にも沼津に来てよかったと思われる接し方を我々もしたいものです。



社員の展示パネル前

さて、10月23日～25日に「上海光大会展中心」で開催された第5回国際粉体工業展(日本粉体工業技術協会共催)を視察してきました。日本からの機械展示は、セイシン企業、東洋ハイテック、大川原化工機、椿本バルク、アマノ、ノリタケ、中央化工機商事があり、パネル展示は、協会、セイシン企業、晃栄産業、松島機械、当社というようにほぼ毎年固定化されています。

今回の総出展社数は171で、そのうち、9割ほどが小規模なブースで、展示のしかたとしてはまだまだ未熟といったところの感があります。展示品で、特に目立った装置は、空気輸送装置が多かったことです。小さなブースでも簡易的な輸送機を1台のみ稼働させ、人目を引いていました。中国人の出展者らは、空気輸送に関する知識がなくてもどこからか装置を手に入れ、何でも知っているような顔をして売らんとしているとのこと(日本人談)。全体の1割ほどは、展示方法、接客ぶりなど真面目に対応しています。日本人からみて、展示方法の未熟さや来場者数も不満のようですが(中国側から見れば何の違和感も無いし、展示会も大成功ということかもしれない)、中国出展側の意欲は総じて高く、中国粉体機器業界の将来の発展を垣間見た気がしました。



中国式の開幕式典



展示会場内

24日に、中国に進出しようとする日本企業の手助けや中国情報の収集分析をしている静岡銀行上海駐在員事務所と当社の代理店である台湾のGM(グッドモーニング)社グループの台杏貿易(上海)有限公司を訪問しました。高柳駐在員事務所長は、上海市民や企業が過熱的に株式や不動産に投資するは上海バブルか?を注視していきたい旨、



日本粉体工業技術協会江見会長、辻海外交流委員長と友人の謝氏

語っていました。台杏貿易(上海)有限公司では、生憎、GMの楊会長は出張中で面談できませんでしたが、林副社長、当社担当の孟氏と単氏の三氏と面談。先日、当社・徐南雷営業部員から届いたイートップの見積について打合せを実施。承知のように、中国の環境問題は深刻さを増しているわけで、水質汚濁防止や大気汚染防止関連で当社の装置が貢献できる場がきっとあると考えます。GM社とよく戦略・戦術を練って買ってくれる客層をあぶりだしていくことが急務かと思いましたが。当社の“名機”を中国市場に送り出そうではありませんか！

社長 赤堀肇紀



清華大学の盖国勝教授

